

PORTICO

vol. 40
2022.10

天高く
さらなる穂へ
(みのり)

新カリキュラムの紹介	P2
看護大ニュース「続・車椅子譲渡」/継燈式	P3
基礎看護学実習Ⅰの学び/総合実習の学び/科研採択状況	P4
サークル紹介: ヘアドネーションサークル	P5
自治会活動報告(球技大会)	
令和4年度新任教職員紹介	P6
対面型オープンキャンパス/Instagram開設しました	P7
20周年記念式典・事業/Webオープンキャンパスのお知らせ	P8

公立大学法人新潟県立看護大学 創立20周年記念式典

令和4年10月に「創立20周年記念式典・講演会」が催されます。寄付金事業も行っております。

記念式典・寄付金の詳細は大学ホームページをご覧ください。



Webオープンキャンパス開催中

本学への入学を検討される受験生に向け、Webオープンキャンパスでも大学情報を発信しています。

今年度、新たな動画コンテンツをアップしました。8月に対面で開催したオープンキャンパスの様子もダイジェストにてお届けしています!

是非ご覧ください。



WEB オープンキャンパス
OPEN CAMPUS

新カリキュラムの紹介

少子高齢社会の進行や疾病構造の変化、生活様式の多様化から、地域包括ケアシステムが推進されており、これに伴い、看護の役割や活動の場が拡大しています。このような社会情勢から、様々な状況に応じた、より質の高い看護を提供する人材を育成するため、2022年度1年次から新カリキュラムがスタートしました。新たに設置された科目と受講した学生の感想を紹介します。



新潟学

人間環境科学領域（情報科学）教授

中村 義実

「地域と共に発展する大学」を建学の精神とする本学は、新カリキュラムにおいて、地域重点型科目を拡充しました。「新潟学」は、1年生の教養科目に設置された科目で、新規開講となる今年度前期には、45名の受講生が集いました。

授業で焦点を当てたのは「地域資源」についての考察です。地域資源とは、私たちの地域を支え、地域の特徴を育んできた「お宝」のことです。風土の特徴、歴史の積み重ね、人々の創意工夫などの幅広い視点から、地域の魅力の奥深さを探りました。一つ、また一つと地域資源を掘り下げていくうちに、地域への関心、愛着、誇りに目覚めていく学生たちの反応を多々観察することができました。「新潟学」の学びが、今後、地域貢献のための行動につながっていくことを期待するものです。最後に、ゲストスピーカーとしてご協力をいただいた上越市創造行政研究所の内海巖様に深く感謝申し上げます。



コミュニケーション英語Ⅲ

人間環境科学領域（情報科学）准教授

Simon Elderton

本学の新カリキュラムでは、学生が幅広い視野と深い思考を持って課題に向き合うための教養教育の実践にも力を入れています。ここでは、今年度後期に開講される「コミュニケーション英語Ⅲ」を「プレビュー」として紹介します。

この授業に活用されるモデルは、教育心理学者エドワード・デボノが提唱する「6色ハット発想法」と呼ばれるものです。今日の医療セクターが直面している諸問題の解決に向けての話し合いを行う中で、学生はデボノが示す6つの視点を意識します。6つの視点は「6色ハット」に喩えられます。色の違う帽子をかぶり直すかのように、それぞれの視点からの「水平思考」に取り組み、自由に考えを述べ合います。このプロセスは、問題を深く掘り下げ、新しい発想や創造的な提案を導き出すことに貢献します。英語コミュニケーション能力を鍛える格好の機会にもなるでしょう。皆さんの果敢な挑戦を楽しみにしています。

看護大学 ニュース

続報：大学の古い車いすを修理し、福祉施設へ寄付をする活動

前年度より、継続して行っている車いすの修理と寄付活動の続報です。前回の記事掲載後、ケーブルテレビの取材もあり、想定を超えた反響がありました。多くの施設や地域住民の皆様より、引き取り希望のご連絡をいただき、ありがとうございました。

この「古い車いす」は、本学の基礎看護学実習室で学生が授業で長年愛用してきたものですが、使用開始から20年近く経過し2021年に新調することになった際に不要になったものです。古いとはいえ、学生が歴代、大切に使用してきたかあって、修理すればまだ使用できそうなものが全部で14台ありました。そこで、学生のボランティアを募り、これらの車いすの修理を行い、福祉施設や公共施設で使用してもらえないかと考え、始まった活動です。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行の波が複数回あり、学生の集団活動の制限がかかるなど、思うように活動が進められないこともしばしばありました。

当初の予定では、この夏休みに引き渡しをしようと楽しみにしていたのですが、現在作業が再度中断しています。現在の進捗は、車いすの修理を大方終える目途がたちました（完了はしていません）。そして学生のアイデアで、古ぼけていた車いすは、びかびかに磨かれ、ちょっとした装飾を施しおしゃれで素敵な車いすに生まれ変わりました。引き取り希望のあった方々へは御礼のご連絡と詳細の確認のご連絡をさせていただきました（現在は受け付けておりません）。多数の引き取り希望があり、どこに寄贈するかは、学生が引き取り先の状況などをお聞きして厳正に検討し、先方との調整を現在行っているところです。

ボランティアの学生たちは、本分である授業や看護学実習の合間を縫いながら、こつこつと地道に、根気強く、丁寧に作業に励んでいます。次回は寄贈後のご報告ができるとと思います。今後もあたたかく見守ってください。



※現在、車いすの引き取り希望は受け付けておりません。



令和4年度
継燈式実行委員長

臨地実習に向けた決意

今日、新型コロナウイルス感染症により世界中で医療が逼迫しています。そのような状況下で昨年同様に式を挙行するか否か意見を交わし合い、検討を重ねました。そして、学年全員の意志の下、今年度も工夫をして挙行することといたしました。新しい生活スタイルや学習環境にも慣れ、私たちなりにコロナ禍の向き合い方を考えてきました。またそのことについて教職員の皆様が多くなる支援をしてくださり、本日を迎えることができました。私たちは、七月より基礎看護学実習Ⅱに臨んで参ります。この実習では、実際に病院で患者様を受け持ち、看護を行う実習です。患者様を一人の生活者として捉え、患者様にとって、何が最善であるのかを考え続ける姿勢を常に持ち今後の学習と実習に真摯に取り組んで参ります。

今回無事に継燈式を挙行できたのは、先輩・教職員の皆様のご指導のおかげです。お忙しい中、私たちのためにお力添えをいただき、心より御礼申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

また、実習病院の方や同窓会の方からいただいたお言葉を胸に刻み、実習に臨む所存です。臨地実習において、ご指導くださいますよう、お願い申し上げます。今後、勉学に励み、より一層精進を致しますので、どうか変わらぬご支援をお願い致します。



看護学実習の報告

初めての实習 基礎看護学実習Iの学び



2年

基礎看護学実習Iの学び

基礎看護学実習Iでは、看護師の役割や業務について学びました。1年生の授業で、看護の意義や看護師となる上での心構え、基礎的な看護技術を学びましたが、看護活動を実際に学ぶことで、これまで学んできたことが看護の現場で活用

されており、また、看護業務の根底には学んだ看護の思想があることがわかり、今まで学習した知識・技術が、看護実践において必要であることを実感しました。さらに、病棟の見学では、ペアである看護師同士の情報共有や確認作業だけでなく、看護チームや他職種間で細かく情報共有することにより、患者さんの安全安楽を守っていること、患者さんの理解が深まり質の高い看護を提供することに繋がることがわかりました。看護業務の一つひとつに意味や理由があり、それを理解して看護援助を行うことで、患者さんがよりよい療養生活を送ることができると学びました。病院の方々には、コロナ禍の中、実習を受け入れてくださり、心より感謝いたします。

4年次総合実習の学び



4年

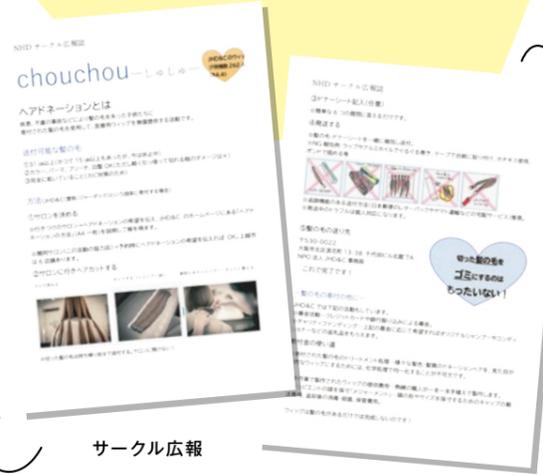
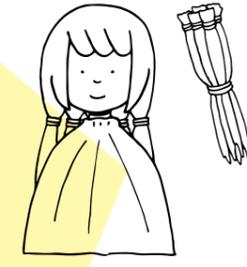
成人看護学 がん緩和ケアコース 緩和ケアを実践しての学び

私は今回の4年生総合実習では、成人看護学のがん看護・緩和ケアコースを選択しました。病棟実習では緩和ケアを行っている患者様を受け持たせていただきました。私が今回の実習を通して学んだことは、患者様ご本人がどうありたいかを把握した上で、ケアをどのくらい介入していくのか考えていくことの必要性です。私が受け持たせていただいた患者様は症状の悪化と向き合いながら入院生活を送っていました。そこで、まずは患者様の病態や出ている症状のメカニズムを把握し、そこから患者様の思いを把握していくことで、個別性のある計画を実施することができました。私が実際に看護援助を実施していく中で難しいと感じたところは、患者様の自尊心を傷つけない、介入を行うことです。以前まで行っていたことができなくなることや、看護師が過度に介入をしてしまうことは、患者様の自尊心を低下させてしまうことにつながってしまうので、看護師の方々に相談しながら、声掛けであったり、ケアの介入度であったりを考えていき、実践につなげることができました。

今後の課題としては、症状の悪化に対して迅速に対応していくことだと思います。日々学習を行いながら臨床でも経験を積んでいき、この課題に向き合った看護を実践していきたいです。

サークル 紹介

NHD サークル



サークル広報

NHDサークルとは、にいがたヘアドネーションサークルの略称です。ヘアドネーションとは、病気や事故により髪の毛を失ってしまった18歳未満の子どもたちに医療用ウィッグを届ける、とても素敵で大切な取り組みです。この活動に賛同している美容室は全国に多数あります。NHDサークルでは、定期的な広報誌の発行により、ヘアドネーションの普及・啓発活動を行っています。また、ヘアドネーションに関する情報だけでなく、ヘアアレンジの方法やトリートメントとコンディショナーの違いなど、髪の毛に関する様々な情報も提供しています。たくさんの方々に、ヘアドネーションを知ってもらいたいという思いから、大学の文化祭では、ヘアドネーションの情報の展示も行っていました。

ヘアドネーションは難しくありません。本学学生の中にも、この取り組みに賛同し、ヘアドネーションを行っている学生がいます。ウィッグを必要としている子どもたちのために、ヘアドネーションにチャレンジしていただくと嬉しいです。

自治会活動 球技大会

球技大会を終えて

自治会長 2年

今年度の球技大会は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、例年通りの4月ではなく6月の開催となりました。球技大会当日は、検温・アルコール消毒などの感染予防を徹底しようと実行委員で方法を検討し、感染予防をたうえて開催し、無事終えることができました。

本学の自治会活動は2年生が中心となって行っており、球技大会は上級生と初めて交流することで新潟県立看護大学がどのような大学か、1年生に知ってもらおう目的のもと、例年4月に行っていました。しかし、今年度は4月から2か月経っていたため、成功するか不安でしたが、大学が始まり2か月間で、1年生同士、また1年生と上級生の距離が縮まったようです。1年生も積極的に活動に参加し楽しんでくれたようでした。また上級生の皆さんもチーム毎にチームキャラのコスプレをするなどして、それぞれ球技大会や下級生との交流を楽しんでくださり、開催してよかったと感じています。他学年との交流の場が制限されている中、貴重な機会を設けることができ、先生、自治会委員、上級生の方々に感謝しています。

これからも制限はありますが交流の場に積極的に参加し、学年を超えて、つながりの深い大学を作り大学生活を楽しんでもらえるよう、手を取り合いながら自治会活動を行っていきます。



令和4年度 科学研究費採択課題一覧

研究者	研究種目別	研究課題名
石田 和子	基盤研究(B)	大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果
山田 恵子	基盤研究(C)	臨床判断モデルを応用した保育士向けPBLS自主学習教材の開発
関 睦美	基盤研究(C)	医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築
研究者	研究種目別	研究課題名
境原 三津夫	基盤研究(C)	小児病院におけるファシリテッド導入促進のために一細菌学的視点からみた安全性一
岡村 典子	基盤研究(C)	感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築
高柳 智子	基盤研究(C)	回復期脳卒中患者の病棟生活21時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発
高林 知佳子	基盤研究(C)	主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動促進モデルの構築
谷本 千恵	基盤研究(C)	患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスカケアプログラムの開発
酒井 禎子	基盤研究(C)	地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価
渡辺 弘之	基盤研究(C)	ベトナムのハンセン病患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援
永吉 雅人	基盤研究(C)	強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム
樺澤 三奈子	基盤研究(C)	補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価
葛城 美德	基盤研究(C)	アグリソームによるαシヌクレインのプリオン様増殖抑制機構
徐 淑子	基盤研究(C)	ホーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア：東アジアへの影響、移入、展開
石原 千晶	基盤研究(C)	分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発
野口 裕子	基盤研究(C)	乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発
坂田 智佳子	基盤研究(C)	在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築
徐 淑子	挑戦的研究(萌芽)	支援プログラムの「しきい」を下げる：薬物使用者の求助行動とサービスアクセスの研究
酒井 禎子	若手研究	化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築
佐々木 三和	若手研究	地域で境界性パーソナリティ障害者を支えるための訪問看護師への支援プログラムの開発
船山 健二	若手研究	刑余者のヘルスカケアニーズ
野澤 祥子	若手研究	成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発

教員



母性・助産看護学
教授
常盤 洋子

はじめまして。4月より本学に着任いたしました常盤洋子と申します。出身は沖縄県です。上越は豪雪地帯と聞きました。豪雪は生まれて初めての経験になります。まずは今年の冬を乗り越えたいと思います。

私は、看護師・保健師・助産師の資格を取得後、助産師として3年の臨床経験をを経て助産師教育に40年間携わってきました。前職の群馬大学では25年勤め、学部では母性看護学・助産学、大学院では母性看護学・助産学研究と母性看護専門看護教育を担当しました。また、群大医学部附属病院で母性看護外来を開設し、女性のメンタルヘルスケアを18年間実践してきました。研究は、周産期のメンタルヘルスと自立的助産師活動をテーマに取り組んできました。

本学では、学生の皆さんが看護の魅力や看護職のやりがいを実感できるような母性看護学教育や研究指導に取り組んでいきたいと思っています。また、大学院では助産師課程の設置に向けた準備を進めており、学生とともに専門性の高い助産ケアと研究を探求していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



母性・助産看護学
講師
西川 美樹

はじめまして。4月より母性・助産看護学の講師として着任しました西川美樹です。

出身は関西で、雪国での生活は初めての経験になります。大学教員の職に就くまでは、小児科病棟、救命救急センターで看護師として臨床経験を積んだ後に助産師資格を取得。その後、大学病院等で助産師業務に従事しながら、助産外来の立ち上げや院内の研修会の企画・運営、管理業務に携わってきました。その後教員として関西圏内の大学の助産学専攻科で主に助産師教育を実践してきました。

研究については、工学研究者との共同研究に取り組んでいます。具体的には、ICTを活用し、助産師の「滞在場所・滞在時間」を数値化し分析をしています。得られたデータは法的に明文化されていない助産師の人員配置検討のための基礎資料として蓄積しており、周産期医療安全への貢献を目指しています。

本学で学生の皆さんと接するのは、主に母性看護学の講義や演習、実習の場面であると思います。一人でも多くの学生さんが母性看護に興味を持ち、母性看護を通して看護の楽しさや厳しさ、そしてすばらしさを学び得ることができるよう努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



精神看護学
助教
早藤 夕子

4月より精神看護学の助教として着任しました早藤夕子と申します。出身は長野県です。看護学生時代はワンダーフォーゲル部に所属し、北アルプスや南アルプスに登っていました。本学から見える山々も美しく、夕映えの空と山のコントラストは見惚れてしまいます。

看護師としては総合病院や在宅、福祉等の現場を、静岡や東京、長野と移り住みながら経験を重ねてまいりました。精神科看護の経験が長くなりましたが、どの現場でも心のケアは必要とされています。その見えない技術はどのようにして身につけるのかを学ぶため、大学院に進学いたしました。修了後の今も「いかにして今のあなたになったのか」という問いを、社会学を通して学び続けています。

教員としては新人です。学生の皆さんからは、改めて看護の楽しさを噛みしめる機会をいただいております。先生方からのご指導をいただきながら、本学の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



老年看護学
助教
青山 拓夢

はじめまして。この4月より老年看護学に着任いたしました青山拓夢と申します。私は、本学の第9期生として卒業後、関東の総合病院の集中治療室で5年間、上越の老健で2年間、看護師として勤務しておりました。その間に、祖父の認知症や病院・施設での認知症の方との沢山の関わりを通じ、認知症や老年看護学に興味を持ち、本学の大学院で学ばせていただきました。

認知症はとても身近なものです。しかし、ちゃんと理解されていない部分も多いと感じます。まだまだ私も理解できていないことは沢山ありますが、少しでも認知症ひいては高齢者の理解につながる力になればと思っています。

教員としては、まだまだ右も左もわからない新人ですが、学生とともに考え学んでいきたいと思っています。一日でも早く領域の力になれるようにと、学生さんの顔と名前を覚えられるように努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

新任教職員をご紹介します！

事務局



事務局長
大竹 順司

4月から事務局長として着任しました大竹です。県職員として36年勤務してきました。前任は防災局消防課で、過去、教育庁に通算9年間の勤務経験がありますが、大学関係の仕事は初めてで、様々なこととまどっています。この広報誌が出る頃には、皆様のお役に立てるまで成長したいと考えています。

社会人になってからの上越勤務は初めてですが、上越は私にとって、生まれてから高校卒業まで過ごした故郷です。毎日通った幼稚園、小・中・高校も本学から近く、小さい頃ですが、今は高田郵便局となっている昔の県立中央病院裏手の構内で遊んでいた記憶もあります。

今回のご縁を大切に、県立看護大学、そして故郷である上越に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



教務学生課長 兼
教務係長
秋山 智章

4月から教務学生課でお世話になっている秋山と申します。

私は上越出身ではありませんが、上越で勤務するのは20代半ば以来、四半世紀ぶりとなります。出勤時に本学の駐車場から妙高山を仰ぎ見ると「上越に戻ってきたんだなあ」としみじみと感じているところです。

大学での勤務は初めてで戸惑うことばかりですが、学生の皆さんが充実した大学生活を送れるよう、そして郷里に少しでも恩返しができるよう微力ではありますが尽力する所存です。よろしくお願いいたします。



教務学生課教務係
主事
内山 永遠

はじめまして。この4月より教務学生課教務係に配属となりました内山永遠と申します。

3月まで大学で勉学に励んでまいりましたが、このたび運営する立場から大学に関わらせていただくことになりました。学生として大学に通っていた頃とは一変して、大学運営や学生さんのサポートの難しさを痛感する毎日ですが、様々なことを学び取って早く学生さんや教職員の方々の力になりたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



総務課庶務係
山田 幸恵

2月9日より庶務係で事務補助として勤務しております山田幸恵と申します。

直近は特別支援学校寄宿舎で、卒後に向け一人ひとりの実態に応じた生活指導に従事しました。事務職は10年ぶり、大学事務は初めてです。至らぬ点多々ありますが、一日も早く業務を覚え任務を遂行できるよう頑張りたいと思います。

また、娘が看護大の卒業生です。感謝の気持ちを込めて一生懸命努めてまいります。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。

対面型 オープンキャンパスを 開催しました！



実施内容について

今年度は、3密を回避しつつできるだけ様々な体験ができるよう、2日間で8つのコースを設けました。コースは「全体説明会」「模擬講義」「体験演習」で構成されており、模擬講義は「地域看護学領域」「老年看護学領域」「基盤」「精神看護学領域」の4コース、体験演習は「基礎看護学領域」「小児看護学領域」「母性看護学領域」「成人看護学領域」の4コースがあり、模擬講義・体験演習それぞれひとつずつ体験してもらうという形式でした。各コースにおいて、本学の雰囲気や看護について知る機会になったのではと思います。

また、今年度は新たに保護者の方々に向け、「看護職のキャリア」をテーマに看護職の多種多様な活躍の場や、大学卒業後のキャリア形成についてミニ講義を開催しました。



体験演習

■テーマ 基礎看護学：“看護”の入口へようこそ！
—看護技術のミニレクチャー—

現役学生と交流しながら、看護技術の演習を体験しました。



模擬講義

■テーマ 老年看護学：高齢者の“食べる”を一緒に考えよう！

大学での講義の雰囲気をほんの少しですが体験してもらいました。



個別相談コーナー

現役学生による相談をはじめ授業、入試相談、奨学金など、参加者の希望に合わせたブースを用意しました。



感染対策について

参加人数を例年より少なくし、事前予約制としました。大学への入場時は、サーモモニターによる検温や各ブースに手指消毒を設置、体験コースにおいては、参加者・スタッフ全員がマスクに加えフェイスシールドを着用しました。

このような状況下であっても、来場する高校生や保護者に、本学の魅力が伝わるよう、そして従事するスタッフも含めて安心してイベントに参加できるよう、事前に綿密な打合せを行いました。

Instagram 開設しました！



Follow me!

新潟県立看護大学の初めての公式SNSとして、Instagramを2022年度春より開設いたしました。

ここでは、イベントや看護学生の日常風景、授業の様子、キャンパス周囲の豊かな自然など、さまざまな様子を配信していく予定です。本学の学生の日常を身近に感じていただけたら嬉しいです。

随時更新中ですので、ご興味のある方は、ぜひのぞいてみてください。

